

RCNP 研究会報告

タイトル

日中韓国際ワークショップ Hadron-Nuclear Physics 2009 (HNP09)

日程 2009年11月16日—19日 (4日間)

開催場所 荒田記念館

参加人数 75名の参加者 (うち中国から6名、韓国から5名、ヨーロッパから2名)

ホームページ <http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~hnp09/>

世話人 岸本忠史 (RCNP)、中野貴志 (RCNP)、堀田智明 (RCNP)、保坂 淳 (RCNP)、兵藤哲雄 (東工大)、Fan Wang (南京大)、Shi-Lin Zhu (北京大)、Hyun-Chul Kim (仁荷大)、Jung Keun Ahn (プサン大)

この研究会は1999年にRCNPで開催された、RCNPとプサン大学との共同研究集会を母体に、その後回を重ね7回目になる。2006年の木津原研の回から中国からの参加者も交え日中韓との共催で毎年行うようになった。

ハドロンの構造と反応を主体に、関連する分野として核構造、核反応の話題を盛り込み、原子核物理の比較的広い範囲のトピックスをカバーしている。今回は、特にRCNPの研究と関連のあるテーマとして、原子核物理ではクラスター構造、相対論的平均場、テンサー力、ハドロン物理ではストレンジネスを含む中間子の光生成、エキゾチックハドロン、重いフレーバーのハドロンなどの話題を集中的に議論した。今回は学生セッションを設け、学生による講演を特に支援した。

会議の参加者からは、議論の内容、規模などから好評な意見が聞かれ、世話人の間では今後も継続して行うことを確認した。次回は韓国で2010年11月頃開催の予定。

Proceedings を World Scientific から出版する。